

## 長良川河口堰「辛口冊子」

朝日新聞 11 月 28 日で表題の記事を目にした。長良川河口堰の「辛口冊子」が入手できるとあり、さっそく送料 215 円分の切手を貼った返信用封筒を同封して、〒460-8501「愛知県土地水資源課」に申し込んだ。しばらくして写真のようなカラー刷りの冊子が届いた。貴重な情報提供に感謝。

「河川再生」とは、私たちの社会にとって健全な経済と環境に対する投資です。「河川再生」とは、皆で力をあわせて実現するものです。長良川にとって、流域の人々にとって、最適な答えは何なのか。その答えをみつける「長良川再生の旅」に出かけましょう！



まずは長良川の声聞いてください。→

わたし、長良川です。いろんな命を、育んできました。「里山」と呼ばれるのが、誇りです。あの日、わたしは海との大切な絆を失いました。1493 億円!? 誰が払ったのでしょうか? 河口堰のゲートが開けば、また旅ができそう。いつ、どんなふうにも、ゲートが開くんだらう。（ここからは、ちょっと専門的な話として）

正しい環境アセスメントができているのか? 大規模な浚渫は本当に必要だったのか? 塩水が上って塩害が起きるのは本当なのか? 水資源開発と渇水対策に向けた新たな発想を 農業用水・工業用水・水道水に影響がない「プチ開門」は可能です! 世界の河川再生 おわりに河口堰の最適運用に関連する専門家たちの会合は有意義

最後に—このパンフレットは、長良川河口堰検証プロジェクトチーム(専門委員会を含む)を踏まえて設置された長良川河口堰最適運用検討委員会において検討、審議した成果をとりまとめ、専門的な事柄を一般の方々に理解していただけるよう整理したものです。このパンフレットが、多くの方々の長良川河口堰開門調査への関心を高め、理解を促進する一助となれば幸いです。

「166 キロの清流を取り戻すために」、長良川の声と河口堰の「プチ開門」の必要性が、専門家の調査・検証を踏まえビジュアルに分かりやすく綴られている。有識者委員らが資金を出し合って、3千部を増刷したという。多くの人に手にしてもらいたい。

長良川河口堰については多くの思い出がある。とりわけ 1999 年 3 月 26 日、日本環境会議名古屋大会「現地視察」が記憶に残る。宇井純先生、原田正純先生らと、調査船に乗って視察したことだ。  
(2016 年 12 月 13 日)